

コンバインドから転向し、今シーズンW杯ジャンプ初参戦の小林潤志郎選手。第2ピリオドの個人戦7試合を終え、ワールドカップポイントを25点獲得し、ランキング36位につけている。

【写真撮影=岩瀬孝文】



開幕戦の団体第1戦で小林潤志郎選手(写真左)は1番手で127mを飛び、日本チームの準優勝に貢献した【写真撮影=岩瀬孝文】

■FISノルディックスキーワールドカップジャンプ

FIS(国際スキー連盟)が主催するシーズンごとの大会で、1979-80シーズンから始まったワールドカップ競技大会の一つ。各シーズン約30試合、世界各国を転戦して行われ、年間王者を決める。個人戦の各試合で予選を通過できるのは50人(うち、ワールドカップランキング上位10人には優先出場権が与えられる)。50人による1本目の成績上位30人が2本目に進む(30位の選手が複数いる場合はどちらも2本目に進むことができる)。30位以内に入った選手には、順位に応じた得点(ワールドカップポイント)が与えられる(1位=100点、2位=80点、3位=60点・・・30位=1点)。

[FISワールドカップジャンプ]

小林潤志郎選手 世界の舞台へ

昨年11月25日にフィンランドのクーサモで開幕したノルディックスキーワールドカップ(W杯)のジャンプ。小林潤志郎選手(東海大2年、松尾中→盛岡中央高卒)が日本代表のメンバーに選ばれ、初のW杯ジャンプに参戦した。八幡平市が誇る若きジャンパーは、活躍の舞台を世界に移し、健闘を見せている。

●第1・2戦(11月25〜27日) クーサモ(フィンランド)

団体準優勝に貢献 個人もW杯ポイント獲得

開幕戦は、1チーム4人で行われる団体戦(HS142m、K点125m)。強風で1日延期となり、1回の飛躍で争われた。小林選手は、日本の1番手に抜てきされると初めて飛ぶジャンプ台ながら、チームに勢いを与えるK点越

●第3・4戦(12月2〜4日)

えの127mをマーク。日本の2位表彰台に貢献し、自身のW杯デビューを飾った。団体戦に続いて行われた第2戦(個人第1戦)。小林選手は、予選20位で本戦に進出すると、1回目109・5m、2回目120・5mを飛んで24位に入り、シーズン前から目標としていた30位以内と与えられるW杯ポイント(7点)を見事初戦で獲得した。

●第5・7戦(12月8〜11日) ハラホフ(チェコ)

予選通過を逃す。しかし、続く第4戦(個人第3戦、HS138m、K点123m)では、29位で予選を通過すると、1回目116m、2回目110mを飛び29位で、W杯ポイント(2点)を獲得した。

●第8・9戦(12月16〜18日) エンゲルベルク(スイス)

個人日本勢最高を記録しランキングは現在36位

予選通過を逃す。しかし、続く第4戦(個人第3戦、HS138m、K点123m)では、29位で予選を通過すると、1回目116m、2回目110mを飛び29位で、W杯ポイント(2点)を獲得した。

●第5〜7戦(12月8〜11日) ハラホフ(チェコ)

予選通過を逃す。しかし、続く第4戦(個人第3戦、HS138m、K点123m)では、29位で予選を通過すると、1回目116m、2回目110mを飛び29位で、W杯ポイント(2点)を獲得した。

予選通過を逃す。しかし、続く第4戦(個人第3戦、HS138m、K点123m)では、29位で予選を通過すると、1回目116m、2回目110mを飛び29位で、W杯ポイント(2点)を獲得した。

初のW杯参戦でポイントを獲得する健闘を見せ、着実に世界への階段を上っている小林選手。誰よりも遠くへ。今季、さらにも上を目指して飛ぶ小林選手の挑戦は続く。